

人称代名詞と英語と日本語の 丁寧表現の分析

An Analysis of the Relationship among Personal Pronouns,
Addresses and Politeness in English and Japanese

藤 原 正 道

英語コミュニケーション学科准教授

抄録：

本論の目的は、主観的事態把握と客観的事態把握を基本に、人称代名詞を明示しない場合の英語と日本語の丁寧表現について分析することである。英語と日本語の事態把握の違いが、丁寧表現にも反映されていること、話し手と聞き手と事態との位置関係の重要性、そして主語や目的語を表さないことによって、なぜ丁寧さを表せるのか、さらに日本語者はなぜ聞き手に対して様々な呼称を用いるのかを明らかにしている。

Summary：

The aim of this paper is to clarify the characteristics of those English and Japanese polite expressions without personal pronouns through the framework of the subjective construal and the objective construal. I also discuss the importance of mental positioning among speakers, hearers and situations.

Furthermore I analyze why Japanese speakers use various addresses for him/herself or hearers in addition to "I" or "you".

キーワード：主観的事態把握、客観的事態把握、人称代名詞、呼称、丁寧表現

Key words：subjective construal, objective construal, personal pronouns, addresses, politeness

1. はじめに

本論の目的は、池上（2011）の提案する主観的事態把握と客観的事態把握の概念を基本に、主語や目的語などの人称代名詞を明記しない場合の英語と日本語の丁寧表現の特徴を分析することである。さらに、日本語ではなぜ「私」や「あなた」以外の呼称を多く用いるのかも分析する。

話し手と聞き手がどのような関係を持ち、問題となる事態をどう認知するのかを考慮すること

で、英語と日本語の人称代名詞と丁寧表現の関係を分析する。

また、本論の分析対象は話し手と聞き手が顔を合わせた場合の会話とする¹。

2. 人称代名詞と事態把握

主語は、心理的な行動主体、つまり自己を言語上に表した記号と考えられるが、明和 (2006) によると、言語獲得以前の乳児にも自己、他者、モノという認識が存在する²。それらの概念の反映として、社会的コミュニケーションの道具としてのことば、ことばの規則としての文法が形成される。ことばや文法の形成には、育児者による繰り返しによる話しかけが最も重要な要素である³。その話しかけから、乳幼児はコミュニケーションのための文法や意味を見出していく。このことから、話し手と聞き手という関係は、言語獲得の初期段階から意識されていると考えられる。

そして、話し手である育児者の母国語が、聞き手の幼児の事態認知にどう反映されるかは、日本語と英語のそれぞれで異なるようである。

2. 1. 英語の人称代名詞

Langacker (2008) は、主語や目的語を次のように定義している。

- (1) A subject is a nominal that codes the trajectory of a profiled relationship; an object is one that codes the landmark. Trajectory/ landmark alignment was established independently as an aspect of linguistic meaning. It is a matter of focal prominence: trajectory and landmark are the primary and secondary focal participants in a profiled relationship. (Langacker (2008:365))

つまり、主語は意味上一番際だった存在であり、目的語はその次に際だった存在ということになる。次の例を見てみよう。

- (2) a John built this bridge.
b ^{??}This bridge was built by John.

(2b) は by によって動作主が明示されている。主語である動作主は、意味上の一番の際立ちであり、this bridge に対して影響力を与える存在でなければならず、John が他の人にあまり影響力のない一般人を示す場合、不自然な文となる。しかしながら、歴史上影響力を持った John F.

¹ 浜田 (1999) によると、幼児は現実の他者を認識するようになると、内なる自己を発達させる。内省についての分析は、本論の対象外とする。

² 板倉 (1999) によると、チンパンジーにも「自己」の存在が認められるらしい。

³ ヒト以外にも、他者と同じ動作を真似ると脳内細胞が発火するミラーニューロンが発見されている。Iacoboni (2009) を参照。ヒトとサルとのミラーニューロンの違いは、子安 & 大平 (2011 : 164) を参照。

Kennedy や John Lennon らを指すのなら、(2b) は容認可能となる。by によって表されるのは、強い影響力を持つ動作主であることが必要である。このことから主語は、目的語に対して影響力のある意味上際だった存在であることがわかる。

さらに、英語は日本語より他動性が強い。次の例では、対象者は主語から動作の影響を受け、その結果何らかの変化が生じる必要がある⁴。

- (3) a I woke you up at 6 and you didn't miss your train.
 b *I woke you up at 6 but you didn't wake up.

(3) では、YOU は I の wake up という動作の影響を受け、その結果、YOU は 6 時に目を覚ましていなければならない。(3b) では、矛盾が生じるため非文法的な文になってしまう。

Langacker (2008) や池上 (2011) らは、英語話者は主語や目的語をそれぞれの文法上の役割として客体化し、発話者が別の視点から眺めるような事態把握の仕方をすると分析している。次の例を見てみよう。

- (4) Where am I?

(4) の例は、道に迷い、話し手がどこにいるかわからない状態を表す。発話者である自分をあたかもその場から切り離し、事態の外側から眺めることによって、自分の置かれた事態を聞き手に解説しているかのようである。英語はこのような特徴を持ち、発話者は客観的事態把握をするので、主語や目的語が必要となる。

2.2 日本語の人称代名詞

英語と比較すると、日本語は他動性が低い。上記 (3b) のように英語で非文法的な例は、日本語では次のように問題なく受け入れられる。

- (5) 6時に起こしたけど、起きなかった。

この文では、発話者の「起こした」という行為はその対象者、つまり起こされる側に影響力を及ぼさなくともよい。日本語は他動性が低く、対象者が起きなくても問題がない。

さらにここでは、行動主体の主語もその対象の目的語、聞き手も明示されていない。それでも日本語話者は、(5) を自然に理解できる。

このような日本語の事態把握の仕方を池上 (2011) は、日本語話者が聞き手と同じ視点から事態を把握しているかのごとく発話していると分析している。話し手と聞き手が、共同で一つの

⁴ Hopper & Thompson (1980) を参照。

文を完成させるようである⁵。

さらに次の (6) を見てみよう。

- (6) a I love you. Will you marry me?
b 好きです。結婚してください。

英語話者は、自分自身 = I をも別の視点から見ているように表現する客観的事態把握をするので、(6a) の発話者自身である I も、行為の対象者の YOU もその場から切り離し、つまり脱現場化し、別の場所から見ているかのような事態として表現する。主語も目的語も、その場を表現する役割として明示される。

一方、(6b) の日本語の例では主語も目的語もないが、日本語話者には自然な理解ができる。なぜなら、話し手は聞き手も同一時間、空間を占めているという共有感覚から、主語の「私は」や目的語の「あなた (のこと) を」は明示しなくてよい。さらに続く文の「私と」も表現されなくとも、自然な日本語として通用する。ここでも話し手と聞き手が、共同主観的認知または、同一現場化している。

次の例にも日本語話者とその聞き手が、共有の現場に立って事態を表現している様子が見える。

- (7) ここはどこですか？
(8) 海は広いな、大きいな。月は昇るし、日は沈む。
(9) a 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。
b The train came out of the long tunnel into the snow country.

まずは、上記 (4) の日本語版の (7) から。英語と違い、話し手が聞き手とともに事態を内側から一緒になって見ているので、発話現場にいて当然の発話者 = 「私」や聞き手 = 「あなた」を明示する必要はない。聞き手と一緒にいるイマ・ココの場所の情報を聞き出そうとしている。

(8) は童謡の歌詞だが、英語話者のように客観的事態把握で解釈しても、つまり事態の外側から歌詞の内容を把握しても単純な情景描写になるだけだ。この例でも、海を見ている行動主体は明示されないが、話し手と聞き手がともに海辺にたたずみ海を眺め、そこに昇る月や沈む夕日と一緒に眺めているという把握をしてこそ、この詞の価値が理解できる。

次に『雪国』の冒頭 (9a) とその英語訳 (9b) は、日本語と英語の事態把握の違いを示すためによく用いられてきた。(9a) にもやはり行動主体の主語が明らかにされていない。(9b) の英語版のように話し手自身が脱現場化してしまう言語では、事態を外側から眺めることになるの

⁵ 加藤 (2007) は、日本人の時間感覚を常に「イマ・ココ」を意識していると分析している。この分析からも、聞き手と話し手が時間・空間感覚を共有していることがわかる。

で、the train という主語が必要になる。しかし、話し手と聞き手が一緒に事態内部に潜り込み、主観的に事態を把握する日本語話者は、列車の中から外のトンネル内部の真っ暗な風景を眺め、次に真っ白な雪の風景が視界に広がるというコントラストを楽しめる。

このように日本語話者は聞き手を巻き込み、しかも同一状況にあるという共有感覚、つまり事態の中に入り込んだ視点で、事態を表現している。

3. 人称代名詞と丁寧さ

3.1 英語の人称代名詞と丁寧さ

一般的な事態の描写ならば、英語話者は対象の事態から外側に視点を置き、話し手と聞き手が等距離で事態に向きあうのかもしれない。しかし、物事を依頼する場合、話し手にとっては心理的に近い事態でも、聞き手にとっては遠いはずである⁶。そのため話し手は、表現上聞き手と事態との距離を取る必要性が生じる。

丁寧表現専用の敬語を持たない現代英語では、仮定法を使い、話し手と聞き手の間に距離感があるように思わせる。

- (10) a Open the door, please.
 b Will/ Can you open the door?
 c Would/ Could you open the door?
 d Do you mind if I ask you to open the door?
 e May I ask you to open the door?

(10) の「窓を開けて欲しい」という依頼内容は、聞き手 YOU にとって、心理的には遠い情報。一方、話し手 I にとっては、近い情報であるはず。しかしながら、(10a) のような表現の場合、聞き手に非常に近くなっている。本来は遠いはずの情報が、表現上近くなっていることから、聞き手に失礼となる。(10a) から (10e) へと表現を変えていくにつれ、聞き手から事態に対する心理的距離を取るようになるため、丁寧な表現となる。

英語では、話し手が事態の外側の視点から眺めているような認知把握をし、事態全体を見ているかのようなので、I と YOU の事態からの距離感を把握しやすいと考えられる⁷。

さらに、聞き手にとって有利な情報は、英語では命令形で表現してよい。

⁶ 法助動詞などは、話し手の事態に対する把握の仕方や程度を表すので、話し手と事態の心理的距離が近くなっていると考えられる。

⁷ 話し手と聞き手が事態に対して、心理的に等距離だと示す表現の方が丁寧である。次の例では、それぞれ a より b の方が丁寧な表現となる。

- (i) a How do you feel today?
 b How do we feel today?
 (ii) a How is your throat?
 b How is that throat?

(11) a Will you come in ?

b Come in.

(12) Watch your step !

話し手の欲求を満たす依頼の場合は、(11a) のように聞き手から心理的に遠くなる表現を用いた方が一般的に丁寧だが、外で雨が降っていたり、中でパーティーがあるなど聞き手にとって中に入った方が利益となる場合は、(11a) より (11b) の命令形、つまり聞き手に心理的距離が近い表現を使う方が丁寧になる。

(12) も同様である。つまりいて転ばない方が、聞き手に有益である。足下の障害物に気がついていない場合、聞き手にとって発話内容は心理的に遠いはずである。しかし、聞き手に有益をもたらす内容のため、(12) のように発話者は、聞き手にとって心理的に近い命令形で事態を伝える。

このような例では、日本語の事態把握と同様に話し手と聞き手が共有感覚を持ち、現場化している可能性が考えられる。その証拠に命令形では、人称代名詞 YOU が必要ない⁸。意味上一番際立つはずの主語も必要ない。なぜなら、聞き手 YOU に対する発話であることを話し手と聞き手の両者が周知しているからである。特に咄嗟の事態に対する発話の場合、YOU から心理的に遠く、脱現場化して聞き手に対して解説しているかのように Could you watch your step ? と発話しては、危険は回避できない。発話者も聞き手も事態の現場にいて、発話に参加していることが必須である。

さらに次の例を見てみよう。

(13) a Do you mind if I smoke ?

b Mind if I smoke ?

(14) a Do you mind if I have a seat ?

b Mind if I have a seat ?

(15) a Do you need help ?

b Need help ?

(16) a I have to go now.

b Hafta (Have to) go now.

⁸ 次の例では人称代名詞 YOU を付加した b の方が a より攻撃的で、より失礼である。Brown & Levinson (1987 : 191) や Langacker (2008 : 469) を参照。

(iii) a Take that out !

b You take that out !

(iv) a Leave !

b You leave !

これらの例では、それぞれ a より b の方が、より丁寧さを表す場合がある。発話者が聞き手との心理的距離を縮める意図がある場合である。

(13b) や (14b) は話し手の聞き手に対する依頼なので、発話者は事態から聞き手の距離を取りつつも、YOU を縮約することによって、話し手と聞き手との距離を近づけている。

(15b) では聞き手に有益な内容の提示だが、対象が YOU だと発話者は周知しているし、話し手も聞き手も現場の発話の参加者であり、仲間意識を表現した方が英語では丁寧である。

(16) では I が縮約されている。時間なので帰らなければならない発話者を明示せず、行動主体を曖昧にしている。聞き手も明示しなくてもよいので、心理上の共有空間、つまり発話現場に両者ともに存在し、仲間意識を持つことで、丁寧さを表している。

YOU や I の人称代名詞を明示して、発話者が事態を客観的に把握してしまうと、心理的距離感は縮まらず、仲間意識が伝わりにくいので、丁寧さが現れない。日本語のように話し手と聞き手が事態の内部に入り込むことはないが、話し手と聞き手の心理的距離を縮めるため、もともと必要な人称代名詞を縮約することで、つまり同一空間を共有することが、英語の発話者の心理上でも生じている可能性がある。

上記の (1) で示したように、英語では主語や目的語は文の中で一番目、二番目の意味上の際立ちを表すので、I や YOU は明示されると心理的な焦点が当たり、行動主体や行動の対象が明確になる。聞き手にとって有益ではない依頼の場合、頼んだのは誰で、その対象は誰かという関係を明らかにしすぎることは得策ではない。

そもそも事態の外側の視点を持つ英語では、事態全体を見渡せるので、話し手と聞き手そして対象となる事態の位置関係は曖昧にしにくい。そこで、一つには人称代名詞を使わないで、その関係性を曖昧にする。もう一つは、(13) から (16) のように人称代名詞を縮約することで、発話者は聞き手との心理的距離を縮め、話し手も聞き手も同一空間を共有しているという仲間意識を生み出すことで、丁寧さへとつなげている。

3.2 日本語の人称代名詞と丁寧さ

英語と違い、日本語話者は常に話し手と聞き手が共同で事態内部に入り込んでいるかのような共有感覚を持っている。このように日本語話者は、もともと聞き手との心理的距離が近く、英語のように外側の視点から事態を見ないので、丁寧さに関して心理的に水平方向の心理距離を取るよりも、垂直方向の上下関係を用いて丁寧さを表すのではないだろうか。もともと発話において共有感覚を有し心理的距離が近いので、遠近ではなく上下で差異をつけ、丁寧さを表すのではないだろうか。

次の例を見てみよう。

(17) a お茶をお持ちしましょう。

b お休みには、京都へ参ります。

この(17)には主語や目的語に当たる人称代名詞はないが、日本語話者にとっては聞き手に対する敬意も自然に理解できる。むしろ「私は」があった方が、不自然である。

(17a)の「お持ちしましょう」は聞き手への尊敬、つまり聞き手を心理的に上方向へ持ち上げて、敬意を示している。そして、(17b)の「参ります」は聞き手から見て話し手が下に見えるよう配慮した謙讓表現。いずれも、心理的位置関係は話し手より聞き手の方が上になる。

日本語話者は聞き手と共同主観をとり、脱現場化が不可能なので、話し手と聞き手の人間関係、つまり上下関係を常に意識しながら敬語を用いる。

次の例も見てみよう。

- (18) a 電車が参ります。
b ドアが閉まります。(ご注意ください。)
- (19) a A train will be arriving shortly.
b Mind the closing doors.

(18a)と(19a)を比べてみると、共同主観事態把握と客観事態把握の違いがよく表れている。(19a)では事態の外側の視点から、列車が近づいてくる様子全体像を描写するように表している。

一方、(18a)では列車は話し手、つまり運行会社に属し、運行会社側から見て乗客が上の位置になるように「参る」という謙讓語を使い聞き手に敬意を表している。つまり、発話者は聞き手と同じ駅のホームにおり、やってくる列車を見ているという事態把握を行っている。

それでは、(18b)と(19b)はどうだろうか。(19b)では、ドアに気をつけた方が聞き手にとって有益なので、命令形の方が丁寧である。そして、話し手と聞き手が心理的にかなり接近することになる。

(18b)は、話し手は聞き手とともにドアの前におり、閉まるドアを見ている。よって、「(私は)ドアを閉めます。」とはならない。

ところで、日本語話者は自分自身にも、聞き手に対しても「私」「あなた」という人称代名詞以外の社会的役割を示す呼称を多用する。人称代名詞を使った(20a)の方が(20b)より失礼になる。

- (20) a (部下が社長に)⁹⁾ あなたの意見に賛成いたします。
b 社長の意見に賛成いたします。

上下関係で丁寧さを示す日本語では、(20a)のように部下から社長へというような上下関係が明らかな場合、特に話し手と聞き手が対等な関係を表す「あなた」を使うことは、失礼になる⁹⁾。

⁹⁾ 英語では、相手の意見に賛成という肯定的な意見はよいが、上下関係があり、相手の意見を否定するには、やはり相手との心理的距離をとる表現が必要になる。

(v) a ^{???} You are wrong.
b I'm sorry but I can't agree with you.

それより (20b) のように、その現場から離れた社会的規範などで決められている社会的役割を表す呼称を用いる方が、発話現場にいる個人の際立ちが小さく、話し手と聞き手が発話に共同参加する関係の中で、対等ではなく聞き手を心理的に上の位置にあるよう配慮した丁寧表現になる。

さらに、次の例を見てみよう。

- (21) a (お父さんは／[?]私は、)[?]あなた／チカちゃんのことをいつも想っているよ。
b お母さんの／私の気持ちが、(あなた／チカちゃんには) わからないの？

まず (21a) では、「私は、あなたのことを」とすると、若干よそよそしい感じがする。「お父さんは、チカちゃんのことを」とした方が、暖かみが増す。家族内での役割を示す「お父さん」や「チカちゃん」の方が父と娘という人間関係が明らかになり、特別な感情が示される¹⁰。

(21b) でも同様に「私の」とした場合、「あなたには」を明示すると、明示しない場合よりわずかながら強い表現となる。「チカちゃんには」の方が穏やかな表現となるのは、(21a) と同様の理由による。「わたしの」「あなたには」とした場合は、話し手と聞き手が対等な立場の人間関係を示す。それよりは「お母さんの」「チカちゃんには」とした方が、その場限りではない家族関係を表し、親子関係つまり、愛情関係へとつながるため、相手のことを気遣っているという意図が含意されることになる。それによって、「私」「あなた」よりも「お父さん」や「お母さん」という家族関係を示す呼称を使う方が、相手への配慮をより強く表した表現となる。

4 まとめ

本論では、英語話者が人称代名詞を省略することで、丁寧さを表すことの背景にある特徴を話し手と聞き手の事態に対する位置関係と把握の仕方から明らかにしてきた。

また、日本語では主観的事態把握が敬語にも反映し、話し手と聞き手が共に事態の内側に存在するので、英語のように水平方向の心理的距離ではなく、垂直方向の上下の位置関係を用いて聞き手への敬意を表す。そうすると、「私」や「あなた」という対等な人称は使いにくいので、その場とは関連のない一般的な社会的役割や人間関係を表す呼称を多用することになることも明らかにした。

ところで、英語話者は I や YOU という性別に関係のない人称代名詞を持つが、男性歌手が Love Song を歌う場合、(同性愛者でない限り) her へ、女性歌手の場合、him へと歌詞が変わる。

一方、日本では男性歌手が女心を、女性歌手が男心を、人称を変えずに歌っても違和感はない。日本語話者は、聞き手との共有感覚をもって事態を把握するので、歌い手の性別だけでなく、見えない不特定な聞き手の性別も関連する。もちろん聞き手の性別は特定できないので、歌い手も聞き手も性別を意識しないことになる。

¹⁰ 娘の側からすると、親子関係という上下関係が強調され、保護者という権威による押しつけがましきという意味が強化されることもある。

このように丁寧表現以外にも、話し手だけでなく聞き手を念頭に置いて事態の把握の仕方、つまり客観的事態把握と共同主観的事態把握を用いることで、英語と日本語の特徴を適切に分析できる。

参考文献

- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge Univ. Press (田中典子(監訳)『ポライトネス：言語使用におけるある普遍現象』研究社).
- 藤沢伸介 (2011) 『言語力：認知と意味の心理学』新曜社.
- 浜田寿美男 (1999) 『「私」とは何か：ことばと身体の出会い』講談社選書メチエ.
- Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson (1980) "Transitivity in Grammar and Discourse," *Language* 56, 251-299.
- Iacoboni, Marco (2009) *Mirroring People: The Science of Empathy and How We Connect with Others*, Picardo (塩原通緒(訳)『ミラーニューロンの発見』ハヤカワ新書).
- 池上嘉彦 & 守屋三千代(編著) (2009) 『自然な日本語を教えるために：認知言語学をふまえて』ひつじ書房.
- 池上嘉彦 (2011) 「日本語と主観性・主体性」澤田治美(編) (2011) 『主観性と主体性』49-67.
- 板倉昭二 (1999) 『自己の起源：比較認知科学からのアプローチ』金子書房.
- 金谷武洋 (2002) 『日本語に主語はいらない：百年の誤謬を正す』講談社選書メチエ.
- 金谷武洋 (2003) 『日本語文法の謎を解く：「ある」日本語と「する」英語』ちくま新書.
- 金谷武洋 (2004) 『英語にも主語はなかった：日本語文法から言語千年史へ』講談社選書メチエ.
- 金谷武洋 (2010) 『日本語には敬語があって主語がない：「地上の視点」の日本文化論』光文社新書.
- 加藤周一 (2007) 『日本文化における時間と空間』岩波書店.
- 木村 敏 (1982) 『時間と自己』中公新書.
- 子安増生 & 大平英樹(編) (2011) 『ミラーニューロンと「心の理論」』新曜社.
- Langacker, Ronald W. (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*, Oxford Univ. Press.
- 明和政子 (2006) 『心が芽生えるとき：コミュニケーションの誕生と進化』NTT出版.
- 益岡隆志 (2009) 「日本語の尊敬構文と日・外の視点」坪本篤朗他(編) (2009) 『「内」と「外」の言語学』3-22.
- 澤田治美(編) (2011) 『主観性と主体性』ひつじ書房.
- 坪本篤朗他(編) (2009) 『「内」と「外」の言語学』研究社.
- Tomasello, Michael (1999) *The Cultural Origins of Human Cognition*, Harvard Univ. Press (大堀嘉夫他(訳)『心とことばの起源を探る：文化と認知』勁草書房).